



鷲尾 美恵子

私が見た「カリフォルニア」

今回の旅行でアメリカは3度目でした。と言っても西海岸は初めてで、大変有名な土地ですし、ぜひ行ってみたい場所でした。まず降り立ったのがサンフランシスコ(以下SF)。町並みは美しく、活気に満ちているといった印象でした。ツインピークスの片方の丘にバスで登り、降りる時に感じた事は、家の周りに芝生がないこと。というのも友達のアメリカーナ女性が日本の第一印象として挙げたのが、道路のすぐ脇に家が建ち並んでいることで、アメリカでは家の前後に芝生が植えてあるのが普通なのだそう。しかし、SFは15km四方の小さな街なので、そんなことも言っていないので、そんなことも言っていないので、家々は狭い間隔で建てられています。壁はそれぞれ調和のとれた明るい色で塗られており、通りを歩

くだけで心が弾んできそうでした。SFでの滞在先は街の中心地で、ホテルから歩いて買い物に行くことが出来ました。私は友達に外国で売っている日本のガイドブックを頼まれていたので早速本屋に行き、旅行コーナーを探しました。察するにアメリカでも人気はヨーロッパで、たくさんガイドブックがありました。そしてその棚の裏側がアジアのコーナーになっており、東南アジアをメインに各国のガイドブック、会話集などがありました。日本のガイドブックはというと、奥の方にありましたが中国の下、韓国の上の棚でした。2日目はカリフォルニアワインの産地ナババレーに行きました。現地ガイドの説明を聞きながら景色を見ていると、周りを山々に囲まれ葡萄畑は微かに記憶に残る風景でした。それは映画「A Walk in the Sun」の舞台になっていたのです。その物語は少し昔の話で、愛する人の子を妊娠したつもりが、その男に捨てられ、途方に暮れるスペイン系移民の若い娘が、葡萄農園をしている家族の元へ帰る途中、戦争から帰



サンフランシスコにて

つたばかりの若者と出逢い、その人と一緒に厳格な父親を説得する。という様な内容でしたが、その中で葡萄畑に霜が降りると、夜中でも村中に鐘が鳴り響き、葡萄畑のいたる所で火を焚き、村中の人々は両腕に羽のようなものをはめて葡萄の木に霜が付かない様に温かい空気を当てるのです。今では、ガス灯で火を焚き、電動でプロペラを回して霜を防いでいるそうですが、方法としてはあまり違いはないようです。この物語ではスペイン系移民の話でしたが、今回見学させて頂いたワイナリーは、イタリア系の方のものでした。今こそカリフォルニアワインは大変有名ですが、昔は害虫が発生したり、又、禁酒法が

「別に良いモノを見つけた。」と付け加えました。店員さんは理解してくれて、最後に「Thank you」と言ってくれました。友達はお金が戻り、私はコーヒの時より上手く言えたので、その日はとても満足した一日でした。帰国前日、アウトレット店を含む大型ショッピングモールへ視察に行きました。LA郊外にあり、土地が広いせいか身障者を階段などの障害物から保護する為か、平屋建てで一周するだけが良い運動になると思える程の広さで、2時間の見学時間は最後、かけ足でした。



山田 雅子

アメリカ西海岸研修事業に参加して

この度、アメリカ西海岸研修の旅に参加し、大変楽しく、かつ有意義な日々を送ることができました。5泊7日の行程のうち、最初の2日間はサンフランシスコ、あと3日はロサンゼルスで過ごしました。

成田空港を出発してから9時間あまりでサンフランシスコ空港に到着。日本との時差はマイナス17時間で、さすがにアメリカは遠い、太平洋はとてつもなく広いんだなあと実感。飛行機に9時間も乗っているだけでもいささか苦痛なのに、昔、咸臨丸は37日間もの航海の末沈没寸前になってサンフランシスコ港に着いたと聞き、本当に先人の苦労と努力には頭が下がる思いがしました。

アメリカ合衆国の面積は日本の25倍、その中でもカリフ

オルニア州はアメリカで3番目の大きさで、空港出発後、いきなりバスで14車線の道路に出てびっくり。サンフランシスコはスペイン人が開拓したことと、スペイン建築の家が立ち並んでいました。それが喫茶店のように皆しゃべっていて、家の大きさも高さも同じように見事に調和。日本の雑然とした町並みとは対照的でした。ハロウインのあとだったので、かぼちゃがたくさん置いてある家もありました。

2日目はサンフランシスコから車で1時間のナバのワイナリー見学。年間降雨量475mm、11月〜4月が雨期で、雨が少ないせいか途中の山々は緑がなく、まるで西部劇に出てくる荒野のようで、そこにこれから生える青い草を求めて、牛の放牧をしています。ナバに近づくにつれ緑も多くなり、少なくとも4000万坪という広大なワイナリーが見えてきました。ナバのぶどうは収穫時に雨が降らないから実が痛まない、また台風も来ないとのこと、恵まれた立地条件にありまし



ディズニーランドにて

た。ぶどうの木はワイン用のぶどうとはいえず、村の立派なぶどう畑を見慣れた目にはこんなに小さく簡単なものかと思われました。ただ土地が広いのはうらやましいばかり。ワインはみんな「安いのがおいしい。やっぱり私達は通じやないね。」と言って笑っていました。

カリフォルニア米は、飛行機で水深15cmの深さにレーザー光線で平らになるように稲を播くそうで、そうすると病気が出ないそうです。カリフォルニア米の質は全米一とのことでしたが、チャーハンになってはお米はあまりおいしくない。やはり日本のお米が一番おいしい!

その晩、ホテルのロビーでは裕福そうなスーツとイブニングドレス姿の男女が集まっています。外へ出てしばらく行くとゴミ箱の間にホームレスが寝ていて、貧富の差をつくづく感じさせられました。あのホームレスの人達はベトナム戦争で心の傷を負ったそうですが、働く気がないのか、それとも働けないのでしょうか。

3日目は飛行機でロサンゼルスへ移動。ロスの街は整然と区画整理され、街路樹が空からみてもわかるほど、きちんと植えられています。ロスは年間2〜3週間だけ曇りであとは晴れ。関東平野がすっぽり入る広さで、土地が広いから2階建ての家が少なく、家は思ったより小さいが庭が広い。日本の春夏秋冬の花が一度に咲いているのには感動。それからエネルギー資源センターでの研修。ここは主に企業人を対象としてリサイクルなどについて学ぶ施設で、その建物自体も拳銃を溶かして鉄の芯にしたり、ロスの大

地震の時割れたガラスも再利用したりなど、80%は再利用されたものでできているそうです。アメリカでも新しい生産の方が主力でリサイクル施設は珍しく、この建物は一般の意識改革の意味もあるのか。カリフォルニアは大気汚染に一番厳しい州で、家で自分のゴミを燃やしてもいけない。環境をきれいにするために多くのお金が使われているとのこと。自分の会社が出したゴミは会社が引き取り、産業廃棄物を出す会社は住民の反対でそこにいられないそうです。日本でも見習いたい話です。